

プロフィール

森 麻季 Maki Mori (ソプラノ, Soprano)

東京藝術大学、同大学院独唱専攻、文化庁オペラ研修所修了。ミラノとミュンヘンに留学し、ブラジルのドミンゴ世界オペラコンクール「オペラリア」等多数の国内外のコンクールに上位入賞を果たす。ワシントン・ナショナル・オペラ《後宮からの逃走》でアメリカ・デビュー以来、ワシントン・ナショナル・オペラとロサンジェルス・オペラにおいて公演を重ねる。ルイージ指揮ドレスデン国立歌劇場《ばらの騎士》、エディンバラ音楽祭《リナルド》、ノセダ指揮トリノ王立歌劇場《ラ・ボエーム》に出演し、国際的な評価を得る。2015年兵庫県立芸術文化センターオペラ《椿姫》のヴィオレッタは、連日スタンディング・オベーションに包まれた。2017年モンテヴェルディ生誕450年を記念した鈴木優人指揮バッハ・コレギウム・ジャパン歌劇《ボッペアの戴冠》のタイトルロールで好評を博す。コンサートではアシュケナージ、テミルカーノフ、インバル、小澤征爾、チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィ、ハーディング等の著名指揮者や内外の主要オーケストラと共演し成功を収める。古典から現代まで幅広いレパートリーを誇り、コロラトゥーラの類稀なる技術、透明感のある美声と深い音楽性は各方面から絶賛され、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」メインテーマやNHK東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を歌い、2016年文部科学省主催WFSC公式イベントに出演するなど、日本を代表するオペラ歌手として常に注目をあびる。CDはデビュー20周年記念アルバム「至福の時～歌の翼に」(エイベックス・クラシックス)ほか。安宅賞、ワシントン・アワード、五島記念文化賞、出光音楽賞、ホテルオークラ賞受賞。

[https://twitter.com/makimori\\_sop](https://twitter.com/makimori_sop)

“愛と平和への祈りをこめて”は、2011年9月開催から10回目の節目を迎える。「わたくしにとってアメリカ同時多発テロ事件に遭遇したことは、平和についてあらためて考えるきっかけとなり、多くの人々を悲しみの渦に巻き込んだ東日本大震災は、祈りをつなげたいという思いがつのり、『愛と平和への祈りをこめて』コンサートのスタートにいたりました」と自身が語る。このコンサートには、森麻季の平和への祈りと愛がこめられている。

山岸 茂人 Shigeto Yamagishi (ピアノ, Piano)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業、同大学大学院(音楽学専攻)修了。在学中に安宅賞受賞。古典から近代にわたるイタリア歌曲を嶺貞子氏に、ドイツ歌曲を佐々木成子、ライナー・ホフマン各氏より学ぶ。ピアノを川口恒子、渡辺健二、高出紘子の諸氏に、また、音楽学を船山隆、本田脩の各氏に師事。声楽の伴奏者としては演奏家から常に深く信頼され、これまで著名な歌手と数多く共演を重ねる。森麻季とは20年にわたり最良のコンビで音楽を支える存在。現在、東京藝術大学声楽科伴奏助手、二期会イタリア歌曲研究会ピアニスト。



© Yuji Hori



© 横井明彦

～愛と平和への祈りをこめて Vol.10～

森 麻季  
ソプラノ・リサイタル  
Maki Mori Soprano Recital 2020

ピアノ: 山岸 茂人

2020 9/13 [日] 14:00 開演  
東京オペラシティ コンサートホール  
2:00p.m., Sunday, September 13 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: ジャパン・アーツ 協力: エイベックス・クラシックス



プログラム

R.シューマン: 歌曲集「ミルテの花」より 献呈

R.シューマン: 歌曲集「女の愛と生涯」Op.42 (全曲)

第1曲「あの方にお会いしてから」

第2曲「彼は誰よりも素晴らしいお方」

第3曲「私には何が何だかわからない」

第4曲「私の指にある指輪よ」

第5曲「ねえ妹たち 私を手伝って」

第6曲「優しい友よ あなたはびっくりして」

第7曲「私の心に、私の胸に」

第8曲「今、あなたは私に初めての苦痛をもたらしました」

R.シューマン: 「子どもの情景」Op.15より (ピアノ・ソロ)

1.知らない国々と人々 2.珍しいお話 3.鬼ごっこ 4.おねだり 5.満足 6.大事件 7.トロイメライ

R.シュトラウス: 解き放たれて

R.シュトラウス: 万霊節



V.ベッリーニ: 歌劇「ノルマ」より “清らかな女神よ”

F.ショパン: ノクターン第8番 変ニ長調 Op.27-2 (ピアノ・ソロ)

F.チレア: 歌劇「アドリアーナ・ルクヴルール」より “私は、つつましい僕”

A.カタラーニ: 歌劇「ラ・ワリー」より “さようなら、故郷の家よ”

F.リスト: 「巡礼の年 第2年 イタリア」より ペトラルカのソネット 第104番 (ピアノ・ソロ)

G.プッチーニ: 歌劇「マノン・レスコー」より “この柔らかなレースの中で”

G.プッチーニ: 歌劇「つばめ」より “ドレッタの夢”

字幕・翻訳: 森 麻季

曲目解説

柿沼 唯 (作曲家)

◆ R.シューマン: 献呈

リスト編曲のピアノ曲としても近年人気が高いこの「献呈」は、シューマン(1810-1856)がクララ・ヴィークとの結婚前夜に彼女に献呈した歌曲集「ミルテの花」の第1曲。燃え上がるような恋人への賛歌であるリュッケルトの詩に、その心情を余すところなく表す音楽が重ねられる。

◆ R.シューマン: 歌曲集「女の愛と生涯」Op.42 (全曲)

シューマンの歌曲のほとんどは彼がクララ・ヴィークと結婚した年、1840年に集中して生み出されている。この「女の愛と生

涯」も、クララとの結婚のわずか数週間前に作曲され、彼女への高まる慕情が書かせた作品といえるものだ。詩は、フランス生まれの詩人アーダルベルト・フォン・シャミッソーの同名の連作詩からとられた。シューマンが女声のために作曲した唯一の歌曲集であるこの作品は、ひとりの女性の一生を、乙女時代の恋慕の情から、結婚、出産、そして夫の死へとたどる8曲で構成されている。

◆ R.シュトラウス: 解き放たれて / 万霊節

交響詩やオペラの作曲家として名高いリヒャルト・シュトラウス(1864-1949)は、生涯に200曲以上の歌曲を残し、シューマン、ブラームス、ヴォルフに連なる、ロマン派歌曲の伝統を受け継ぐ最後の作曲家でもあった。

<解き放たれて>は、リヒャルト・デーメルの上の愛を歌い上げた詩をもとに、官能と祈りにも似た情感が交錯するリヒャルト・シュトラウスならではの豊穣な音楽が息づく。

<万霊節>は、年に一度、死者がこの世に帰ってくるカトリックの祭日に、今は亡き恋人に寄せる愛の歌。抑えられたモノローグは現実と追憶の間を揺れ動き、最後にその慕わしい思いがほとぼり出る。

◆ V.ベッリーニ: 歌劇「ノルマ」より “清らかな女神よ”

ベッリーニ(1801-1835)のオペラの魅力は、何よりその甘美なメロディと、簡潔ながら聴き手の感受性に強烈に訴える音楽にある。<ノルマ>はその代表作としてあまりにも名高い。巫女の長ノルマが第1幕で歌うカヴァティーナ“清らかな女神よ”は、儀式の中で月の女神に祈る、ベッリーニならではの流麗な旋律美あふれる名アリアだ。

◆ F.チレア: 歌劇「アドリアーナ・ルクヴルール」より “私は、つつましい僕”

フランチェスコ・チレア(1866-1950)の代表作<アドリアーナ・ルクヴルール>は、フランスの名女優をモデルとしたヴェリズモ・オペラ(日常的な題材をモチーフとしたオペラ)の名作。“私は、つつましい僕”は、女優アドリアーナが歌う名旋律。

◆ A.カタラーニ: 歌劇「ラ・ワリー」より “さようなら、故郷の家よ”

今日ではこのアリア一曲のみによって知られるイタリアの作曲家アルフレード・カタラーニ(1854-1893)の代表作<ラ・ワリー>は、チロル地方を舞台に、恋人のためにひたむきに生きた女性を詩的かつロマンティックに描いた作品。富裕な地主の父親がすすめる結婚を断り、勘当されたワリーが、「私は遠くへ行き、もう二度と戻らないでしょう」と歌い上げるこのアリアは、聴くものの心を動かさずにはおかない。

◆ G.プッチーニ: 歌劇「マノン・レスコー」より “この柔らかなレースの中で”

プッチーニ(1858-1924)が35歳の時に作曲し、その出世作となったオペラ<マノン・レスコー>は、美少女マノンをめぐるストーリーで、若い騎士デ・グリュエや好色な老財務官ジェロントが登場する。このアリア“この柔らかなレースの中で”は、その第2幕でジェロントの愛人として贅沢な生活を送っているマノンが、デ・グリュエとの甘い生活が忘れられないと歌う一曲。

◆ G.プッチーニ: 歌劇「つばめ」より “ドレッタの夢”

<つばめ>は、パリの裕福な銀行家の愛人マグダが、純粋な青年ルジェロと出会い本当の恋を知る物語。ここで歌われる“ドレッタの夢”は、名ソプラノがこぞって取り上げる人気曲。マグダのサロンに集う仲間の一人、詩人のプルニエがピアノを弾きながら、ドレッタという女性をヒロインとした未完成の新作の詩を歌い始めるが、途中で詰まってしまう、それをマグダが引き継いで歌うのがこの曲だ。高音のロングトーンが聴きどころとなっている。